



学校だより

# 伸びゆく子

令和5年4月7日  
横浜市立中沢小学校  
4月号

たくさん遊んで たくさん学んで ~ひびきあいを大切に~

学校長 川又美貴子

桜の花びらが舞い、若い緑がまぶしく感じられる中、令和5年度が始まりました。103名の新入生を迎え、全校児童685名でのスタートです。私も着任3年目を迎えることとなりました。本年度もよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響も、丸3年を過ぎてようやく落ち着きを見せ、この4月から一部配慮する場面はあるものの、原則として学校生活でのマスク着用を求めないこととなり、子どもたちも、教職員もお互いの表情をしっかりと見ながら学習活動を進められることとなりました。この3年で慣れた生活習慣でもあり、すぐに切り替えることが難しいお子さんや、花粉症やその他の状況によってマスクを外せないお子さんもいることから、子どもたちの自主性を尊重しながら、緩やかに3年前の日常を取り戻していければと考えています。



さて、今年度も4月早々に旭中・中沢小の教職員が旭中に集まり、合同研修会を行いました。平成29年度から併設型小中学校として独自教科「地域・防災科」や「小中授業コンセプト」などを通して、9年間で子どもたちを育てようとして取り組んできています。この研修会において「中学校に入る前に身につけておいてほしい力」のテーマの中で出た話題が大変興味深いものでした。例えば、中学校の数学での「1.5倍はどれくらいになるのか」「0.4で割ると答えは大きくなるのか小さくなるのか」などの問題や、社会で「1000分の1の縮尺で書かれた地図の3cmは、実際の距離では何mになるのか」などの問題について、明らかに答えが違っていても、感覚的にそのことがわかっていないことがある、との話でした。大体どれくらいになるのか、という数や大きさなどの感覚がしっかり身につけていけば、見通しをもって答えを出すことができ、たとえ計算間違いがあったとしても感覚的に気づくことができるはず、というのです。本当にその通りだと思いました。だからこそ、小学校では具体的操作活動が重視されており、身の回りの長さを色々なものを使って調べたり、あさがおの種を何百と数えたり、計量カップの水を何回も汲んで1dLや1Lを量り取ったりしているのです。でも、授業の中だけでは足りません。小さい頃に、たくさん遊び、たくさんいろんな経験をするのがその後の学習の理解を深め、豊かな学びにつながっていくのだと思います。

今年度は行事や体験的な学習も、昨年より一層制限が緩和され、たくさんの方ができるようになることが想定されます。一人ひとりの豊かな学びを実現できるよう、またひびきあいを豊かにしていけるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。